

[成果情報名] 樹勢の強いウイルス無毒樹「巨峰」の短梢せん定による無核果の生産

[要約] 比較的樹勢が強いといわれるウイルス無毒樹「巨峰」では、長梢せん定による安定生産が主流であるが、強樹勢を活かし一文字仕立て等の短梢せん定による無核果処理によっても安定した生産ができる

[キーワード] ウイルス無毒樹、巨峰、一文字仕立て、短梢せん定、無核果

[担当] 長崎県果樹試験場・落葉果樹科

[連絡先) 電話0957-55-8740、電子メールrakuyo@afes.pref.nagasaki.jp

[区分] 九州沖縄農業・果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

ブドウ「巨峰」のウイルス無毒樹の場合、樹勢が強く花振るいによる生産の不安定が懸念され、これまで樹勢を抑えるために長梢・弱せん定などにより着果安定を図ってきた。そこで、むしろ樹勢の強さを生かし、植物生育調節剤の利用による無核化を行うことによって、これまでの「巨峰」の持つ高級感に加え、食べ易さを加味した生産を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 開花前のストレプトマイシン剤（以下ストマイ）液剤処理を行った後に、ジベレリン液剤（以下GA）の満開期及び開花14日後に処理を行うといずれの区も安定して高い無核果実が得られる（表2）。
2. GA処理時にホルクロルフェニユロン液剤（商品名：フルメット、以下F）を満開2日後に加用すると1粒重は大きい（表2）。
3. 軸の変形や硬度等に若干の値が見られるが商品性に問題はない（表3）。
4. 以上のことから、ストマイとジベレリン液剤の併用処理により確実な無核果が得られことから、樹勢の強いウイルス無毒樹にあっては生産が安定する。

[成果の活用面・留意点]

1. 無核果処理を行うには樹勢を保ち、早期落葉などを防ぎ枝の充実を図っておく。
2. 大果生産に伴い樹体への着果負担が高まり、着色不良になりかねないので適正着果につとめる。

[具体的データ]

表 1 ストレプトマイシン剤処理後の満開までの日数と G A 処理

区	ストマイ 処理日	満開まで の日数	G A 処 理 日		調 査 房 数
			1 回 目 満開 2 日後	2 回 目 満開 14 日後	
1 区		12.1	GA 25ppm+F ^z 5ppm	GA 25ppm	53
	H14年				
2 区	5月8日	12.9	GA 25ppm	GA 25ppm+F 5ppm	55
無処理			-	-	11

^z F フルメット液剤

表 2 ストレプトマイシン剤及び G A 処理による無核果率

区	枝 長 (cm)	葉 数 (枚)	節間長 (cm)	枝 径 (mm)	一 房 重 (g)	着 粒 数	一 粒 重 (g)	無核果率 (%)
1 区	155.2	23.5	6.1	9.9	291.0	23.9	12.3	99.6
2 区	169.8	25.2	6.5	9.7	352.9	36.2	9.8	100.0
無処理	67.0	15.7	4.2	8.2	258.7	25.9	10.1	0.0

表 3 ストレプトマイシン剤及び G A による無核果生産の場合の果実品質

区	果皮色 ^z	脱粒 ^y	裂果	軸		剥皮 ^v	皮厚 ^u	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	硬度 ^t
				変形 ^x	硬度 ^w					
1 区	7.2	1.2	0.0	1.3	2.0	2.4	1.3	18.3	0.46	1.3
2 区	7.2	1.3	0.0	1.2	2.2	1.4	1.3	18.0	0.49	1.3
無処理	8.4	1.2	0.2	1.0	1.0	1.0	1.0	17.4	0.50	1.0

^z 黒色系ブドウ用カラーチャートによる

^y 1:普通 2:やや離れやすい 3:すぐ離れる 4:とても離れやすい

^x 1:健全 2:ややしの字 3:しの字 ^w 1:軟らかい 2:やや軟らかい 3:硬い 4:とても硬い

^v 1:容易 2:中 3:やや剥きにくい 4:困難 ^u 1:薄い 2:中 3:やや厚い 4:厚い

^t 1:軟らかい 2:やや硬い 3:硬い 4:とても硬い

[その他]

研究課題名：既存ブドウ‘巨峰’ウイルス無毒樹低収園の原因解明と改善技術の確立

予 算 区 分：県単

研 究 期 間：平成14年度（平成12～）

研究担当者：中倉建二郎、田中 実